

地域とアートの相互作用を発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト

本プロジェクトの目的は、アートおよびアート関係者の知見を軸に、地域とまちづくりを複数の視点から検討すること、鹿児島県の人的・知的財産を発掘すること、そうした財産を活用する知見を獲得することである。本プロジェクトは、地域の人的・文化的資源や関連する歴史を多角的に掘り起こし、将来地域を文化的に発展させる可能性を孕む要素への目配りとなる。それを学生や地域の人々が参加可能な場で共有することは、地域を支える人材の育成につながる。別言すれば、本プロジェクトは複数の水準で地域の文化のインフラを構築することを目的とする。

2つの具体的な目的

- ・現代アートを中心に、アートやまちづくりに関して鹿児島や近隣地域に根ざしながら堅実に向き合ってきた関係者の活動を掘り起こす。
- ・鹿児島における現代アート関係の活動の射程や可能性を検証する。そのために、県内外の状況との比較を行う。比較のための対象として、国内において現代アートを専門的に扱う熊本市立現代美術館の事例や取り組みを取り上げる。

4回のワークショップの開催

- ・第1回：アートと地域とまちづくり（2023年10月27日）
 - ・第2回：アートと地域と美術館（2023年11月17日）
 - ・第3回：アートと地域と教育（2023年12月1日）
 - ・第4回：制作・キュレーション・批評（2024年2月8日）
- 場所はすべてラーニング・コモンズ1もしくは2（鹿大内）



第1回「アートと地域とまちづくり」の様子。登壇者は藤浩志（美術家・秋田公立美術大学教授）、市村良平（株式会社スタジオグッドフラット 代表取締役/企画・プロデューサー）、四元朝子（サンカイ・プロダクション合同会社 広報/アート・コーディネーター）。

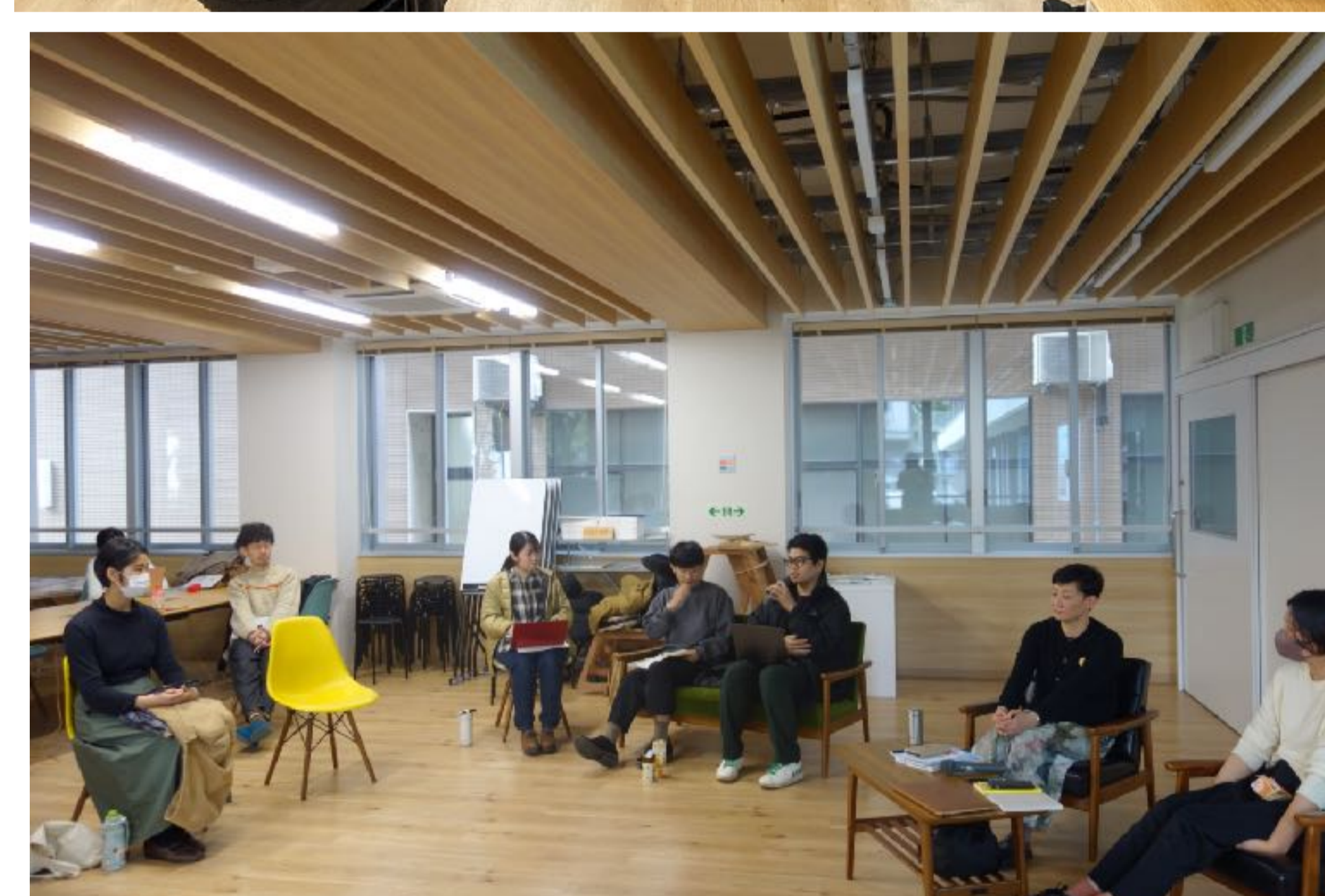


第3回「アートと地域と教育」の様子。登壇者は早川由美子（NPO法人 P and A 理事長）、坂本顕子（熊本市現代美術館 学芸員）。



第2回「アートと地域と美術館」の様子。登壇者は祝迫真澄（都城市立美術館 学芸員）、宮園広幸（霧島アートの森 学芸課長）。

会場はラーニング・コモンズ2。そのほかのワークショップについては、ラーニング・コモンズ2を使用。



第4回「制作・キュレーション・批評」の様子。登壇者は原田真紀（インディペンデント・キュレーター）、木浦奈津子（美術作家）、太田純貴（本学教員）。

4回目のワークショップは3名の学生有志による仕切りのもとで行われた。

成果1：地域とアートの多様な関わり方の具体的事例に基づいた把握

藤氏や祝迫氏や宮園氏や坂本氏、原田氏、木浦氏からの話題提供を通して、青森や秋田、鹿児島や熊本や宮崎といった地域で、アート関連のイベントや美術館が地域やまちづくりに貢献していることを参加者は具体的に知る契機となった。それらは地域の文化資源を多角的に評価・活用できる足場となる。加えて、他地域での知見を地元に戻元するための視点や文化資源としてのアートという視点の獲得にもつながる。

成果2：アートに興味関心を持った場合の修学や就職に関する展望の獲得

早川氏、市村氏や四元氏からの話題提供を通して、アートに関わることは制作や学芸員や教員といった立場に限定されるものではなく、NPO法人や、広報活動やファシリテーターといった立場からも可能であることが示された。それは、大学でアートに関係する内容を学んだ場合、それを活かすことのできる立場が、学芸員やアーティスト以外にも、複数あることを示唆している。それらは学生のキャリアパスの可能性を開く一助となる。

成果3：地域の課題に対する鹿児島大学法文学部の知見の有益性の発掘

坂本氏からは熊本市現代美術館による「やさしい日本語」などへの取り組みの事例を提供いただいた。日本語教育や社会教育に関しては、教育・研究の両方の水準で本学部の複数の教員が積み上げている。大学の研究成果は、理論的なモデルであったりする場合があるので、地域の固有の文脈を絶えず睨みながらというのは大前提であるが、大学が築き上げた知財・人材が地域の課題解決に結びつき得る端緒が示されたように思われる。「やさしい日本語」以外にも、地域の映画館や映像文化についての美学芸術学的・メディア文化論的・人類学的知見なども、地域への応用可能性を秘めている。

成果物

- ・『令和5年度地域マネジメント教育研究プロジェクト事業「地域とアートの相互作用を発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト」活動記録』
- ・学生によるフライヤー

プロジェクトメンバ

- ・太田純貴（法文学部人文学科多元地域文化コース准教授）
- ・菅野康太（法文学部人文学科心理学コース准教授）
- ・酒井佑輔（法文学部法経社会学科地域社会コース准教授）
- ・清水香（教育学部美術科准教授）
- ・農中至（法文学部法経社会学科地域社会コース准教授）
- ・学生有志

※ゲスト含め、ご参加・協力いただきました全ての皆様にご挨拶申し上げます。

活動記録は「鹿児島の近現代」センターで閲覧可能です。フライヤーに関しては、同センターのHPをご確認ください。